

## 学 位 論 文 要 旨

### 研究題目

Impact of lipoprotein (a) on long-term outcome after percutaneous coronary intervention in the era of new generation drug-eluting stents

(New generation DES 時代におけるリポプロテイン(a)が与える長期予後への影響)

兵庫医科大学大学院医学研究科

医科学 専攻 器官・代謝制御 系

循環器病 学 (指導教授 石原 正治)

氏 名 木村 俊雄

Balloon angioplasty, 従来型金属ステントあるいは第一世代薬剤溶出性ステント時代において、リポプロテイン(a) [Lp(a)]が高値であると、長期予後不良であると報告されているが、新世代薬剤溶出性ステント(new generation DES)時代においては定かではない。本研究は new generation DES 時代における Lp(a)が与える長期予後への影響について明らかにすることを目的とした。

本研究は、2013年1月～2017年12月までの間に、虚血性心疾患の診断でカテーテル治療(PCI)を行った症例のうち、①新規病変に対して、new generation DES を用いてPCIを行った症例、②Lp(a)のデータを有する症例、③生存退院した症例、の495例を対象とした。対象患者の平均年齢は69.4歳で、76%は男性であった。主要評価項目は、3年経過時の主要有害心血管イベント(3-year MACE)とし、心臓死、心筋梗塞、ステント血栓症、臨床的に必要とした標的病変への再血行再建、新規病変への血行再建、の複合ポイントとした。Lp(a)値30mg/dLをカットオフ値とし、high Lp(a)グループ( $\geq 30$ mg/dL: n=109)とlow Lp(a)グループ( $< 30$ mg/dL: n=386)の2群に分けた。3-year MACE 発生率をKaplan-Meier 曲線で分析したところ、high Lp(a)グループで有意に3-year MACE 発生率が高いことが明らかとなった(33.0% vs. 15.9%,  $p < 0.001$ )。3-year MACE と関連する因子を単変量解析及び多変量解析を用いて検討したところ、Lp(a)値 $\geq 30$ mg/dLが独立した予測因子であることが明らかとなった(HR 2.01, 95%CI 1.30-3.11,  $p = 0.002$ )。結論として、new generation DES 時代においても、Lp(a)が高値であることは長期予後不良と関連していることが示された。